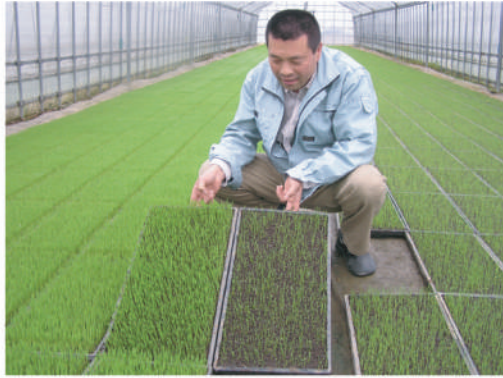


有限会社エコ・ライス新潟

新潟県長岡市脇川新田町字前島970-100
TEL:0258-66-0070 & FAX:0258-66-0447

〔平成20年産では、13品種(酒米・モチを含む)の田植えを行います。新潟県の約95%はコシヒカリ系統品種が寡占。多品種作付で天候リスクを回避します。〕

クイーン倶楽部だより 5月号



写真上：同じ時期に蒔いた苗箱。左がコシヒカリ、右が春陽。

写真左：種がぐさり、芽が出ない状態に。

発芽率とは…種を蒔いたときに芽を出す率。90%前後の発芽率が望ましく、40%程だと田植をしても欠株が発生します。

春陽ピンチ!!芽が出ない?!

昨年、春陽の稲が開花するまでは低温と日照不足でオシベの「不稔」が多発し、他の米の花粉が春陽につく、「交雑」が発生してしまいました。そのために、今年の種籾に使用せずにやむ終えず一昨年保管していた種を蒔きました。

しかし、芽が出ません。発芽率約40%。田植ができない!?

自然相手の農業は思いもかけないリスクが降りかかります。発芽率が悪いので苗を大きく育て根を張らせて田植えをするしかありません。しかし、大幅な減収が見込まれます。計画通りにいかないのが農業です。



右図：春陽の開花

米は自家受粉する植物ですが、交雑することも…。交雑した株を翌年種籾に使うと、極端に品質が変わります。

Dr中村のお米の話



中村 信也(なかむらのぶや)

医学博士。東京家政大学家政学部栄養学科教授として教鞭をとり、「食と医療」の医療薬膳研究の第一人者として活躍中。

第17回 出世食品

「とどのまつり」という言葉がありますが、意味はわかりますでしょうか。「色々あったが結局は」ということに用います。とどは魚の「ぼら」が成長したものです。ぼらは、おぼこ、いな、ぼら、と成長に従い名を変え、最後がとどです。名を変える魚を「出世魚」といいます。ほかにすずき、ぶりがあります。

出世するにつれ名を変えることは人にもあります。木下藤吉郎、羽柴秀吉、豊臣秀吉などが有名ですが、出自がよいひとは幼名と成人名とは異なっていました。一般人でも死後戒名(法名)で名を変えることもあります。これはランクがあり、値段も違います。

いずれにしても呼び名が変わるのは偉大なものに限られます。植物界でも呼び名が大きく変わる優れものがあります。そうです。いわゆる知れた「お米」です。何しろお米は日本人には別格の食物ですから出世する毎に名を変えます。

まず、極小さい頃は「籾」で、赤ちゃんが「苗」で、成人しますと「稲」です。「稲穂」が出て、籾ができます。籾を精米すると「白米」と呼ばれ、炊くと「飯」になります。飯と呼び捨てにすると叱られそうなので「ご飯」と呼びます。

きゅうりは名を変えません。苗も、蔓も、実も全部きゅうりです。通じます。麦も名を変えないことありません。何故日本では米はめまぐるしく名が変わるのでしょうか。アメリカでは米は特別視しませんので「ライス」のみで通じます。

お米が名を変えるのは、変える必要があるからです。日常生活や商売上区別しないと不便が生じるからです。後は自分で考えてください。今回は、お米は特別な存在というお話でした。

《発芽率が悪いのでそのままでは田植え機で植えられません。通常より苗を大きく育てて植えますが、欠株の多発が予想されます。今からではやり直す時間もないし「種」もない。きびしい!》